

ASAPカンボジア通信

Asia School Attendance Partnership

NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会



コールタメイ村に中学校ができたよ！トロピアンプレイ中学校

2014.10

■ 第 21 回視察訪問のご報告

長谷川 理事長…P1

■ トロピアンプレイ中学校落成…P2

■ コールタメイ小学校図書室誕生…P2

■ カンボジアから先生たちが来日…P3～4

■ 支援校の様子 …P5～6

■ Mother to Mother 活動報告…P7～8

■ ツアー参加者感想…P9

■ 訪問の様子…10

■ 平成 26 年度通常総会のご報告…P11～12

Vol.14

第21回視察訪問のご報告

理事長 長谷川 安年

平成26年8月25日から30日、第21回支援ツアーを実地致しました（1月の19回訪問後5月に視察、打ち合わせの為に副理事を含む2名が20回目の訪問をしております）

今回は、昭島市の啓明学園高等学校の先生2名と14名の生徒さんがカンボジアワークキャンプとして、又、(株)ラッシュジャパン様からの支援金によって完成した中学校落成式参列に伴いラッシュジャパンの社員3名の方も参加されたこともあり、総勢過去最多の34名でのツアーになりました。体調を崩された方が数名おり心配いたしました。中学校落成式、多摩川コールドメイ小学校図書室増築完成祝い、恒例となったタトゥム、トロク小学校対抗ドッジボール大会等内容の濃い充実したツアーとなり無事帰国致しました。

今回特筆すべきは、中学校がない地区コールドメイ村への中学校寄贈が、ラッシュジャパン様よりの力強い協力を頂き思いもかけない早期に開校することができた事です。

中学校がない為に進学を断念する子どもたちの将来を大きく開くことができた事に、ASAP一同心から感謝申し上げます。

さらに、今までコツコツと続けてきた地道な支援の成果といえる幾つかのビックニュースも飛び込んできました。ご支援いただいている皆様と一緒に喜びを分かち合いたいと思います。ぜひ報告をご覧ください。

皆様からの尊いご支援がカンボジアの子どもたちの教育や幸せの為に大きな力となっていることをこの目でしっかりと見届けられているのは大変嬉しいことであり、改めて皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

しかし、校舎が建っても順調に教育環境が整わないのがカンボジアであります。この先を見届けるのがASAPの大きな役割と、身を引き締めております。今後ともご支援賜りましたら大変有難く存じます



コールタメイ村に中学校が誕生！！



カンボジアでは中学校や高等学校に進学する子どもはほんの一握りです。その原因のひとつは学校がない、という事です。通いたくてもあまりにも遠方の為諦めてしまうのです。コールタメイ村にも中学校がなく、子どもたちは十数キロ先の隣村の中学校まで通わなければなりません。どうにか5教室の中学校をたててもらえないだろうか…。と相談をうけたのは昨年夏。5教室の建物建築には500万円余かかります。キロタチュム小学校校舎を寄贈したばかりで予算がなく、「しばらく待ってくれ」としか言えなかったのですが、昨年暮れに(株)ラッシュジャパン様から400万円の寄付が決定し、その寄付をもとにしてこの8月、5教室の中学校を贈ることができました。村待望の中学校の誕生に、皆本当に喜んでいました。ラッシュジャパン様本当に有難うございました。

図書室誕生（東京秋川ロータリークラブ寄贈）

2012年8月に誕生した「多摩川コールタメイ小学校」に秋川ロータリークラブからの寄付による「図書室」が増築されました。書籍は「Room To Read」という団体から寄贈されます。

カンボジアではポルポト時代に知識人が大勢殺されました。字が読めるというだけでも殺された為、読書習慣が崩壊してしまいました。確かに市場や街に現地の人向けの本屋は見当たらず、村人の「お宅拝見」でも家の中に本を見た事はありません。

本を読む楽しさを知ってもらい、読書習慣を復活させるために学校の図書室は大きな役割を果たします。次回訪問した時には本がたくさん並んでいる事でしょう。楽しみです。

木々に囲まれた赤土の道路を進んでいくと現れる多摩川コールタメイ小学校。小さいけれども宿舎、大型井戸、運動遊具、そして図書室もあるとっても素敵な小学校になってきました。皆さん一度見に来てください。



カンボジアから先生達が来日！

(9月6日～11月30)

外国は初めてですが、日本の校長先生と話せて嬉しかったです。見た事をできる限り自分の学校に取り入れたいです

日本の幼稚園や小学校を見学できてとても良い勉強になりました。水族館や動物園など初めての経験が沢山出来ました。本当に有難うございます。



12年日本語のガイドをしています。ずっと日本に来てみたかったので、夢がかなって本当に嬉しいです！

サレイ先生 又ウ校長先生 通訳のタラさん

カンボジアの学校では体育や音楽、絵画の授業は全くありません。ポルポト政権の影響で先生達自身がそういった授業を受けたことがなく、指導法もほとんど学んでいないからです。見た事も経験した事もない活動を子どもに教えるのは難しいことでしょう。百聞は一見に如かずで、校長先生達を日本に呼んでしまいました！日本語も英語もほとんどわからない為、通訳のタラさんも一緒です。又ウ校長先生と通訳タラさんは1か月の滞在で10月1日に帰国しましたが、東京、京都、動物園、水族館、富士山などの見学と共に、多摩川幼稚園や南秋留小学校で体育、音楽、絵画の授業を見学して頂きました。サレイ先生は11月30日まで3か月間日本に滞在してもらい、日本語の勉強に励んでもらいます。

先生たちに聞いてみました

カンボジアの学校の抱えている大きな問題はなんですか？

「先生たちが、時間通りこない」「生徒が家の仕事の為に長く休んでしまう」ことです。

タットムやトロクの先生はASAPから支援金をもらっているので時間通りに来ます。(良かった！)

卒業生が先生になって戻ってきましたが、カンボジアの国は赴任先を選べるのですか？

郡の高校を卒業すると試験を受けますが、成績上位5人は選べます。今回来た先生は上位の成績でタットムを選んできました。(ちなみにサレイ先生も上位2番の成績だったそうです。)

(学校が良くなることでよい先生が集まり、さらに学校が良くなる、こんなことが展開されています。本当に嬉しいですね)

支援金が力を発揮していると知って嬉しいですが子どもたちにも何か影響はありますか？

先生たちが時間通りに来て、きちんと授業が行われていることや、新入生に制服がもらえることを知って、貧しい家庭の子が遠くからも「タットムに子どもを入れたい」と来るようになりました。

日本ではいじめや登校拒否が問題になりますがカンボジアではいかがですか

カンボジアではあまり聞いたことがありません(先進国ならではの問題なのかもしれませんね)

学校では世界食糧機構の給食を受けていますが、村で朝食が食べられない子どもはどれくらいいますか？

10%ぐらいの家庭がそういう状態です。

日本滞在の様子 あれこれ？！

◆ お互い犬に驚き？！

日本で見た散歩中の犬に「犬が鎖に繋がれている！」と苦笑い。カンボジアを訪れる学生たちが「犬が自由に歩いている」と驚くのと正反対！こんなところにも異文化が現れます。

◆ 人がいない日本…

『日本の町は綺麗で家も清潔ですが、人がいませんね』という感想。確かにカンボジアでは涼しくなる夕方になると人々が家から出てきて通りがにぎやかになります。一方日本は車移動が多く、昼間も夜も人が歩いていません。考えてみるとちょっと寂しい日本の風景です。

◆ 「水」がある幸せ

水道から水が出るのが当たり前の私達。先生達が日本に来て初めて食器を洗った時の様子が忘れられません。水道の水をお椀に取り、お椀をゆすいたらすぐには捨てずに次のお椀に移してゆすいでいました。日本では衛生的にあり得ない洗い方ですが、水が貴重な所では簡単に流してしまう事ができないのでしょうか。

「ない」ところでは大変貴重な水。非衛生と簡単に言い切れない生活の大変さを感じました。飲める水のお風呂にさえ入ることのできる日本。本当に有難いことです。

◆ 多摩川幼稚園や南秋留小学校を見学

A S A Pの事務所のある多摩川幼稚園や、地元の

「あきる野市立南秋留小学校」で2日間の学校見学と、6年生へのカンボジア交流授業を行いました。6年生への質問タイムにはカンボジアでは授業が一日4時間しかないという「いーな〜！」の声。(2部制です)でも、「一クラス60人で、一日4時間だから、休み時間もないし、みんなの大好きな体育や音楽や図工もなくて勉強だけよ」と聞くと皆シーン…。カンボジアにはない栄養



指導や道徳の時間など貴重な視察見学をさせて頂きました。「こんなに素晴らしい環境で勉強できる日本の子どもたちは本当に幸せです」という先生たちの言葉ですが、物の有る無しではないソフト面で参考になることを吸収してもらえたらと願いました。

◆ 女性はやっぱり…

ある日の朝、先生達を見ると「アレ？何かが違う…」前日購入したお化粧品でメイクアップしていたのでした！恥ずかしそうでしたがニコニコ嬉しそう。やっぱり女性は興味ありますよね！

◆ 日本語の勉強がんばって！

サレイ先生の最大の任務は「日本語の勉強」。ことあるごとに「日本語で言って！」と言われ、「みんな**嫌い**ですね〜！！」。まだまだ片言ですが少しずつ日本語が増えてきました。最低限の意思疎通がとれるぐらい日本語を習得してもらって、帰国後ほかの先生や生徒たちに教えてもらえたら！こんな夢に向かって残りの2か月。サレイ先生一緒にがんばりましょう！！

このカンボジア通信がお手元に届いている時期にはすでにタラさん、ヌウ先生はカンボジアにお帰りになっています。滞在中は多くのボランティアの方々に支えて頂きました。お礼を申し上げます。サレイ先生は11月30日まで滞在しています。今、日本語の特訓中です。ぜひ遊びにいらして下さい

支援校が郡で一番の学校に

学校を建てただけではカンボジアの未就学問題解消にはならないとわかり、2006年から継続して現地を訪問し、経済的支援や助言などを続けて参りました。「校庭にゴミを捨てない、生徒の数を把握する」等こんな小さなことでもなかなか浸透せず、支援の効果はいったいどのぐらいあるのだろうか…と思うこともありましたが、しかしここで非常に嬉しいニュースが飛び込みました。支援校の**タットム小学校が、シェムリアップ州の数十校の中から「一番良い学校」に選ばれた**というのです！（今回日本にいらしたヌウ先生が校長をしている学校です）校庭やトイレが衛生的な環境であるか、書類がちゃんと整備されているか、生徒はちゃんと学校に来ているか等いくつものチェック項目があった中でのベスト1だったそうです。国から報奨金と群章がもらえるという事です。



タットム小学校の教室内。とてもきれいです

支援校を訪問した支援者の方々からは「思っていたよりもきれい」という感想を頂くことができますが、これこそがASAPの支援の成果なんです！

ASAPの思いは、「支援校を地域のモデル校に育て、そこから他の学校へ波及させたい」というものです。思いもかけずこのような形で成果を知ることができたこと、そして皆様からのご支援をしっかりと実らせることができたことがわかり本当に嬉しいです。

学校に根付いた「ドッジボール」

4年前、子どもと先生達にスポーツの楽しさを知ってもらおうと導入したドッジボール。今年もタットム小学校対トロク小学校の対抗試合を開きました。優勝はタットム小学校！

来日したヌウ校長によると、学校のない土曜日に、子ども達が「ドッチボールをしたい！」と先生を引っ張り出して、校庭で皆で遊ぶことがあるそうです。

子どもたちにドッジボールの楽しさが伝わり、そして学校でスポーツが行われ始めたこと知り、嬉しさで胸がいっぱいになりました。

いつかタットムやトロク小学校から他の学校へドッジボールが広がったら素敵ですね！

役に立っているよ、大教室

多摩川幼稚園では行事の時には、二クラスの間壁を取り外して一つの広いホールにしています。カンボジアの学校には「ホール」というものが存在しません。多摩川幼稚園のように、壁を取り外してできるようにできないだろうか...。というわけで、多摩川コールタメイ小学校では『取り外し可能壁』の誕生。恐らくカンボジア初！そして**今回の図書室寄贈式ではその威力を発揮しました。スクールや灼熱の太陽を気にすることなく集まった生徒や村人と完成を祝う会を行うことができました。村の集会などでも活用されているとのこと。**今までも、屋根付き渡り廊下、入り口が前と後ろにある教室と、日本で便利！と思う様式を取り入れてきました。日本人らしい工夫で、他にはない使いやすい学校になっていると思います。



仕切りを取ってホールになった教室

高校生の募金活動でバスケットゴールが！

啓明学園高等部の皆さんが学校の募金活動でバスケットゴールを2基寄付されました。一基は今回落成したトロピアンプレイ中学校に。もう一基は多摩川コールタメイ小学校に贈られました。どちらの学校でも、「知ってはいたけれども本物を見るのは初めてです」と大喜び！中学校では校庭にお目見えしたその時から男の子たちが興奮気味。小学校では校長先生が花壇作りに予定していた場所を「バスケットグラウンドにします！」と計画変更を宣言。以前行った聞き取り調査では「勉強以外に楽しい事が学校にあるといい」という言葉を何度も聞きました。休み時間に楽しく遊ぶ子どもたちの姿が目に浮かびます。啓明の皆さんの温かな気持ちで、カンボジアの学校で子どもたちを笑顔にしています！



Mother to Mother 活動報告



日本のボランティアの方達と。こんな日が来たなんて嬉しいですね！

今回のヌウ先生、サレイ先生日本滞在の目的の一つは、日本でのマザーの作業をしつかりと見て学んでもらう事でもあります。将来カンボジアにマザーの作業場ができた時に作業が円滑に行えるようにと考えてのことです。

タットム村には農業以外に収入につながる仕事がなく、お母さんたちは「作業場ができれば村の縫製工場ですね！そんな場所ができれば本当にうれしい」と心待ちにしています。しかし、250万円はかかるといわれている建築費用です。ASAPの予算をそれだけに割くわけにもいきませんので、今コツコツと費用をためている最中です。

完成は数年後になるかもしれませんが、実現に向かって一緒にがんばりましょうと、今回、先生たちと語り合いました。



視察や観光の合間をぬって、マザーの作業もしっかりと勉強してもらいました

お母さんに聞きました

タットム小学校の卒業生が先生になって戻ってきました。
何と彼のお母さんは Mother のお母さん！二人に話を聞きました



ASAP が校舎を建ててくれて、汚かった学校が綺麗になったので、学校に行きたくなりました。なぜ勉強するかがわからず嫌いだったけれども、ASAP の人達から『学校で勉強することは自分の将来を開くことだからしっかり勉強しなさい』といわれた事で、勉強をする気になりました

私は子ども達の為に沢山働いてきました。
Mother の仕事もずっとしてきて稼ぐことができました。おかげで、息子が学校の先生になって、タットム小学校にきたんです！！
本当に嬉しいです。



Mother 活動が村の子ども達の就学の力になっていると実感です！！

字が読めないという事、考えたことがありますか？

カンボジアの国はポルポト政権下学校教育が崩壊し、その為現在でも文字の読み書き計算ができる大人が極端に少ないという事情があります。**読み書き計算ができないという事がどういう事か考えたことはありますか？**

マザー活動が広がるにつれ、以前正確に縫えていた物にも間違えが増えてきました。なぜ？と考えた時にわかりました。

つまり、お母さん達がみな文字を書けない為に、作るための注意事項などを記録することができず、新しいことを覚えると以前の事は忘れてしまうのです。（人間の記憶には限界がありますよね）「平行や直角を正確に」ということを守ってもらうのも一苦労…。教育を受けていないという事は、考える力にも大きく影響するという事を本当に実感します。

先進国は便利さを求めてどんどん発展していき途上国との格差は開くばかりです。多摩川幼稚園理事長が教育者として見過ごすことは出来ない、小学校校舎を寄贈した事から始まった ASAP です。ASAP のできる事は本当に小さな事ですが、せめて子ども達が小学校に入学し卒業できるように力を貸したいと思います。

ワークキャンプに参加して

啓明学園高等学校3年 石倉佳乃子

このワークキャンプに参加したことで、本当の貧困の意味、教育の大切さ、不平等すぎる現実を知りました。最近では「急成長するカンボジア」「プノンペンにイオンモール出店」など、テレビで放送しているので「村の生活」といってもきっと日本の「昭和」位の生活なんだろうな、と考えていました。

でも現実はかけ離れていました。村には電気どころか水も通っておらず、水も雨水を貯水タンクにためたものを一年使っていると話していました。

小学校で交流した子どもたちはシャイでふざけあったり、キラキラした可愛いものが好きで、ドッジボールやバスケットに白熱していました。そんな姿を見ていると、日本の子どもと変わらないと感じましたが、子ども達をよく見ると服に穴が開いていたり、靴を履いていなかったり、髪や体が汚れていることに気づきました。でもその子どもたちは比較的裕福な家の子たちで、もっと貧しい子ども達は学校に通えず、ずっと働いています。

アンコールワット見学中に、小学校低学年位の男の子が涙で目を真っ赤にして物を売っているのを見たときは胸が痛かったです。

お金がなくて学校に通えない家庭の親は読み書きができないため、良い仕事に就けず、子どもたちを学校に行かせることができないのです。これが学校で習った「負の連鎖」なんだと身をもって学ぶことができました。きっとこのキャンプに参加していなかったらその真の意味を理解できなかったと思います。

小学校で昼食を食べていた時に、窓から女の子が二人顔を出して私の机の上を指さしました。最初は私の名札が見たいのかと思って指を差したら頭を横に振りました。

私が手当たり次第に見せても違うと首を振ります。まさかと思いつつも、食べ残しのお弁当を見せたら急に笑顔になりお弁当を受け取り「ソーム・トー」と言って行ってしまいました。私はその意味が分からなかったので「きっとありがとうと言ったのだろう」と思いましたが、後で調べると「ごめんなさい」でした。あんなに小さな子どもに「ごめんなさい」と残飯を受け取られたと分かった時には、どうして世界がこんなに不平等なのだとも胸がとても痛みました。

このような気持ちをキャンプに参加していなかったら絶対に感じることはできなかったと思うし、参加した私たちにはこのことを啓明の生徒に伝える必要があると思いました。

先進国の人々がこのことを知り、何か少しでも動きだせば何かが変わり始めます。その少しが山となり、カンボジアのような途上国で一人でも多くの子どもたちが夢を持ち、その夢をかなえられるようにと支援し続けて行きたいです。



アンコールワット遺跡の前で

訪問の様子



日本で準備してきた「折り方」の見本を手に



うちにクレヨンと絵具で絵を描きました



市場に並ぶ豚の顔！



完成した図書室の内部です。本はこれから揃います



教室に貼られたポスター



コールタメイ村の家の様子。

平成26年度 通常総会のご報告

去る8月19日に多摩川幼稚園にて平成26年度の通常総会が開催され、平成25年度事業報告、収支決算、平成26年度事業計画、収支予算が承認されましたので概要をご報告させていただきます。

1. 25年度 事業報告(事業の成果)

- ◇ 26年1月、キヨタチュム5小学校に5教室の校舎寄贈、及びトロク小学校の屋根全面工事を行った。
- ◇ (株) ラッシュジャパンより400万円の助成金を受け、コールタメイ村に5教室のトロピアンプレイ中学校寄贈。26年8月に完成。秋川ロータリークラブから昨年度に引き続き50万円の寄付を受け、多摩川コールタメイ小学校に図書室の増築を行った。26年8月に完成。
- ◇ トロク、タットムには、教員計12名に月額20\$と年間在籍生徒数×2\$の「学校運営費用」を支給した。コールタメイ小学校には、学校運営費補助として校長と教師1名に補助を行った。
- ◇ マザー活動、及び訪問時の活動拠点としての施設建設を目的として、ルムチェック村トロク小学校隣接地を40万円で購入した。名義はKHJのボッパーさんとなっている。
- ◇ タットム、トロク小学校卒業生に対して「アルバム」新入生への制服及び文具の支給を実施した。
- ◇ Mother to Mother 事業については、学校からの要望でカンボジアでの仕事は総勢27名での体制となり、販売協力園は20園から40園に、売上は170万円ほどになった。
- ◇ コールタメイ小では、「赤色ドラゴンフルーツ」の栽培事業を継続した。
- ◇ 「カンボジア通信」vol.12.13の発行、ホームページの更新、啓明学園での講演、近隣幼稚園の行事等への積極的な参加等を通して事業の支援を求めるPR活動を展開した。
- ◇ 25年8月19名、26年1月25名、5月2名の現地視察を実施し、スポーツなどの交流活動を積極的に行った。1月訪問時においてはコールタメイ小学校校庭にタイヤ遊具を設置する活動を行った
- ◇ 笠原先生による絵画指導がタットム、トロク小学校で定期的に行われている

2. 平成25年度 収支決算(概要) (平成25年7月1日から26年6月30日まで)

I 経常収入の部		III その他資金収入の部	
1 会費収入	1,048,000	24年度会費回収収入	40,000
2 寄付金収入	9,739,680	仮払金回収収入	46,000
3 売上	1,730,110	期借入金収入	350,000
4 その他の収入(利息、為替差)	20,022		
経常収入計	12,537,812	その他資金収入合計	436,000
II 経常支出の部		IV その他資金支出の部	
1 事業費		固定資産取得支出 ※	11,140,853
(1) 教育機関運営支援	987,737	短期借入金返済支出	290,000
(2) 就学困難家庭支援	1,482,449	前受金差額	20,000
(3) 広報・啓発・調査・連絡調整	133,147	預り金差額	3,400
(4) 現地要員活動費	0		
2 管理費(パート代金含む)	975,048		
経常支出合計	3,578,381	その他資金支出合計	11,454,253
経常収支差額	8,959,431	当期収支差額	-2,058,822
		前年繰り越し収支差額	6,920,160
		次期繰り越し収支差額	4,861,338

※2014年1月完成キヨタチュム小学校、トロク小学校屋根修理、トロピアンプレイ中学校校舎費用一部

3. 平成 26 年度 事業計画(事業の実施方針)

- ◇ 25年度まではトロク、タットム両教員に月額20\$を教育支援金として支給してきたが、国からの給料が当初の30\$から120\$に上がったため、支給額を10\$に減額し、教員不足問題を抱えるキロタチュム小学校への教育支援金を開始する(月額30\$) タットム、トロク、多摩川コールタメイにおける年間在籍生徒数×2\$の「学校運営費用」は継続する。
- ◇ タットム、トロク両校の新入生への制服支給を実施する。(計約90人)
- ◇ タットム、トロク小学校卒業生に対しての「アルバム」は簡素化し継続する。
- ◇ Mother to Mother活動においては活動のより安定した継続を考え、国内で行っている作業をカンボジアへ少しずつ移行させながら活動を継続する。さらに、将来の現地作業所開設を目指す(助成金が受けられなかった場合は、土地の造成のみを行なう)又、今年度より多摩川コールタメイでも活動を開始する。
- ◇ 多摩川コールタメイ村においては、「赤色ドラゴンフルーツ」の栽培事業を継続する。
- ◇ 今後の支援事業の発展と安定の為に9月6日より通訳のタラさん、ヌウ先生、サレイ先生の3人を日本に招待し、各教育現場の視察と、日本語学習、マザー活動の研修を行う。滞在期間は1か月～3か月。
- ◇ 「カンボジア通信」vol. 14. 15の発行、ホームページの更新、近隣幼稚園、高校、大学への積極的な働きかけ、及び26年8月、27年春の現地視察ツアーを通して事業の支援を求めるPR活動を展開する。
- ◇ 月一回のタットム、トロク小学校でのシェムリアップ在住の笠原先生による絵画指導を継続する。
- ◇ 昭島ロータリークラブ コールタメイ小学校にポータブルソーラ及び電子オルガン(計約80万円)の寄贈を27年春行う

4. 平成 26 年度収支予算(概要) (平成 26 年 7 月 1 日から 27 年 6 月 30 日まで)

I 経常収入の部		III その他資金収入の部	
1 会費収入	900,000	前年度会費回収収入	0
2 寄付金収入	3,000,000	仮払金回収収入	0
3 売上	1,600,000	期借入金収入	200,000
4 その他の収入(利息、為替差)	10,500		
経常収入計	5,510,500	その他資金収入合計	200,000
II 経常支出の部		IV その他資金支出の部	
1 事業費		固定資産取得支出 ※	4,000,000
(1)教育機関運営支援	1,515,000	短期借入印返済支出	200,000
(2)就学困難家庭支援	1,490,000	前受金差額	0
(3)広報・啓発・調査・連絡調整	168,000	預り金差額	0
(4)現地要員活動費	50,000		
2 管理費(パート代金含む)	869,000		
経常支出合計	4,092,000	その他資金支出合計	4,200,000
経常収支差額	1,418,500	当期収支差額	-2,581,500
		前年繰り越し収支差額	4,861,338
		次期繰り越し収支差額	2,279,838

※トロピアンプレイ中学校校舎、図書室費用一部
土地造成費用

…… 速報 !! ……

この「カンボジア通信」印刷直前に、『庭野財団』から『Mother 活動作業所建築事業』への助成金決定の通知が届きました。助成金額は40万円です。沢山の応募団体の中から選んでもらえたという事は、進む方向に間違いはないと大きな励みになります。又、会員の船津様より25万円特別に寄付も頂き、今まで積み立ててきた費用約100万円に合わせると165万円です。建築費用は土地造成が必要なため、250万円はかかるのですが、あと一息という所まで来ました！今年度着工も夢じゃないかもしれません！

…編集後記…

この度の「支援先の先生を日本へご招待」計画を実施するにあたり、カンボジアから日本へ来ることが想像以上に大変ということを知りました。日本大使館へ提出する書類もかなり細かく何種類も必要でしたが、何より、カンボジアでは「公務員の先生」が外国に出るには「教育長、教育局、教育庁」と国の許可を次々とらなくてはならず、おまけになんだかんだ理由をつけてなかなか許可がおりない…という状況でした。最終的に全ての手続きが終わったのは、現地視察中の8月29日！タラさんと手を取り合っで喜びました。この様なバタバタの来日でしたが、支えて頂いた支援の皆様へ心から感謝申し上げます。
(編集 副理事長 大沼 陽子)

支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願いします。

- * 正会員… 年20,000円
- * 賛助会員… 毎月1,000円 (年額12,000円)
- * その他支援金… 金額を問わず随時受け付けております



■郵便振替口座 00130-2-594647
『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033
普通口座 1292601
口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

ASAP カンボジア通信

ASAP 会報 Vol.14 2014.10

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会
(省略“ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地
TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)
FAX 042-550-2467
メールアドレス asap@tamagawa-kids.jp
ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap/>

■発行人 長谷川 安年